

【県内のある小学校におけるペーパーレス化の状況】

※学校規模（R5 児童数128名）

- ◆ 学校現場への文書半減プロジェクトによる電子データのやりとりで、**ペーパーレス化を促進**
- ◆ 令和5年4月より「**お便り配信アプリ**」を導入し、保護者への**お便りを電子化**
- ◆ 学校現場への文書半減プロジェクトの取組との**相乗効果**で、用紙の使用量が**大幅に削減**

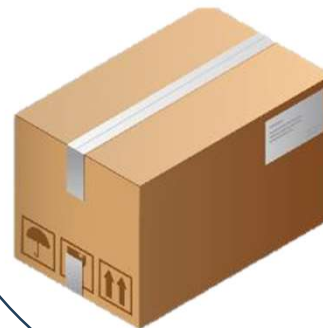
～県内のある小学校では～

文書半減プロジェクト等によるペーパーレス化の状況



<ペーパーレス化の効果>

- ・ 先生方の印刷や配付にかかる手間が削減
- ・ **事務職員では**、文書保存作業が軽減（保存文書の入替作業の時間短縮・文書保管スペースの削減）
- ・ **教諭（学級担任）では**、主に帰りの会などで、お便りやチラシ配布の時間が大幅に削減されたことにより、余裕をもって一日の日課を終えることが実現
- ・ 帰りの会がスムーズに終わるため、放課後の時間も確保



1箱2,500枚入の
A4用紙に置き換えると…

$$32,000 \text{ 枚} \div 2,500 \text{ 枚} = 12.8$$

約12箱分の用紙削減

※各種用紙（A3、A4、B4、B5）の合計

学校現場からの声

主に、事務担当や教頭の文書処理の負担軽減につながっています。

本校では、生み出された時間を、児童生徒の対応、職員（担任等）の支援、校務分掌に属さない（すき間の）仕事に使うことができます。

民間から直接学校にくるものは増えていますが、学校判断で取捨選択しています。これまで学校は、何でも受け入れてきた姿勢や歴史がありますが、「こうあるべき」という殻を破り、意識改革を行うことが大切です。「国や県からの通知」がしっかり届けばよいし、校内でも、「回覧するもの＝重要」という認識に変化してきています。

文書に軽重がつけられ、大切な文書にじっくり目を通すことができます。

キャビネットのものも、周知したほうがいいのか悩むものがある。そういう場合は、事務職と管理職で相談します。一見時間がかかるようですが、これまでだったら、全てのものを回覧し、教頭一人が振り分けに悩んでいたので、ここで相談して決まることで、後の文書の扱いが楽になります。



当初は、新たな仕組みに戸惑い、処理時間もかなりかかっていました。しかし、その後、小中学校では、校長会や事務職員部会等を通じて各校の状況を共有し、学校ごと工夫して取り組んだことで、現在、職員の戸惑いもなくなっています。

メール文のエッセンスの記載内容を充実していくと、文書処理の負担軽減に大きな効果があると思います。

「印刷しない」と決めたら、やればできます。文書を保存（処分）する手間・時間・スペースも減ると思っています。プロジェクトを通して、改めて文書と向き合い、事務や教頭の働き方が変わったと感じています。「思い切り」と「決断」が大切なんですね。